新幹線協議会ネットワーク

No.８
２０２５年８月２９日　発行
ＪＲ東労組　新幹線協議会
発行責任者　　伊藤　千恵蔵

「安全は輸送業務の最大の使命」･･･の筈ではないですか？

原因究明による安全の再確立をつくり出そう！

２０２５年８月２４日　鷲宮(信)～小山間走行中の６３Ｂ列車（Ｕ編成１０両）において、緊急ブレーキが動作し列車が停車、約３時間にわたり東京～盛岡間で運転見合わせとなる事象が発生しました

８月２６日に会社よりプレスリリースがあり、当該列車の緊急ブレーキが動作した原因は**何らかの原因で１０号車の電気連結器が動作して「併合」位置となり、緊急ブレーキが動作した**という驚くべきものでした。なぜ走行中に電気連結器が「分割」位置から「併合」位置に動いたかについては現時点では不明とのことです。

更に驚くべきことに、今後の対応について**「万が一、同様の不具合が発生した場合に備え、乗務員等による応急処置手順を新たに定め、迅速な対応によって早期の運転再開が可能となる体制を整備します。」**とありました。このことは受け取り方次第では、「故障の原因はわからないが、もし再発しても乗務員に処置させるから問題ない」ともなり、故障への乗務員対応のことなのか分かりません。

一方でこのプレスを受けて世間からは「また連結機器の故障が発生したのか？」「JR東日本の新幹線は本当に安全なのか？」など様々な声が上がっています。職場でも、またもや原因が明らかになっていない車両故障が発生したことに対して不安や疑念を持つ社員は少なくありません。

今、必要なことは**「原因究明」による安全の再確立です。**事故・事象が発生してからの「事後対策」では安全は守れません。会社は経営理念に「安全」がなくなったことに「安心に含まれている」としていますが、「安心自体が崩れていること」を受け止めるべきです。

新幹線協議会は、特にここ数年連続発生している新幹線の様々な事象に対し「命」と「安全」を価値基軸に据え、ブレることなく会社と向き合って団体交渉を行ってきました。それは今後も変わるものではありません。これからも「命」と「安全」を堂々と掲げ、会社と真正面から向き合っていきます。